



気候変動適応に関する取り組み例

建築研究所では、気候変動適応に関する取り組みとして、主に【国民生活・都市生活分野】や【自然災害分野】に関する事項について研究を実施している。

「水害リスクを踏まえた建築・土地利用とその誘導のあり方に関する研究」 (国民生活・都市生活分野における取り組み例)

【概要】 (研究期間: 令和元~3年度)

都市における洪水による浸水被害を対象に、浸水リスクを踏まえた建築・土地利用とその誘導のあり方を研究する。

想定されるハザードの規模と頻度等の性格に応じた適切な対策の方向性について、①既存のハザードマップ情報や水害統計等の災害・リスク情報の分析、②建築・敷地レベルの浸水対策の費用対効果等の分析、③国内外における対策の事例と仕組みの整理・分析、等により検討する。

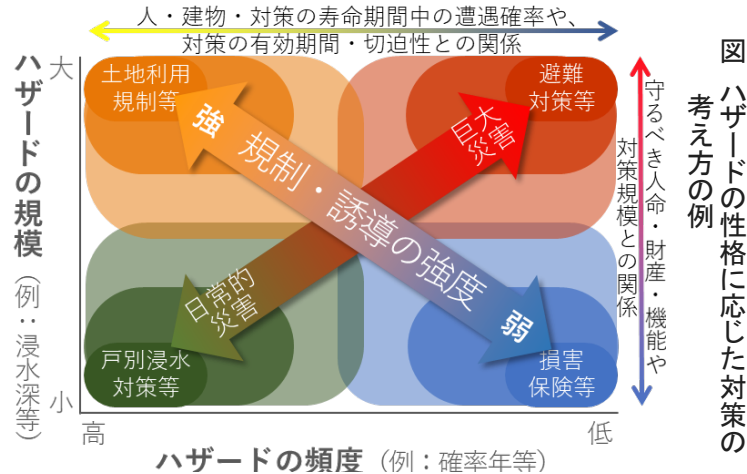


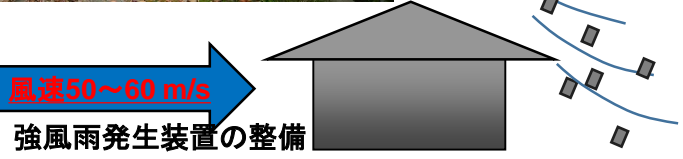
図 ハザードの性格に応じた対策の考え方の例

「台風による住家の屋根等の被害の軽減に資する研究」

(自然災害分野における取り組み例)



屋根瓦の飛散



【概要】

近年、台風21号(2018年)や令和元年房総半島台風(2019年)の強風による住家の屋根ふき材や屋根小屋組み等の被害が多数報告され、その被害額は極めて甚大(2018年火災保険の支払額は1兆円超)となっている。住家の強風被害のリスクを低減する目的で、実大強風発生装置を整備し、屋根ふき材や屋根小屋組み等の耐風性能の検証、破壊メカニズムの把握、耐風性能向上に資する技術開発等を行う。